

特集：看護師大解剖

魚沼基幹病院だより

きかんのみかた



魚沼地域
医療の輪
地域全体でひとつの病院

vol.004 2023年3月31日発行

病棟看護師は
常に様々な道具を
持ち歩いています!



院内用 スマートフォン

ナースコールを受けることが出来ます。スタッフ同士の連絡にも使います。



ゴーグル

患者さんと接するときに装着して使用します。新型コロナウイルス感染症が流行してからは、個人用に配布されました。



ナースウォッチ

秒針付きの時計です。秒針を見て点滴の滴下数を合わせます。もちろん検査・手術の入室時刻の確認にも使います。

聴診器

患者さんの胸やおなかの音を聴くために使用します。好きな色の聴診器を自分で購入しています。



4色ボールペン・ アンダーラインペン・ 油性ペン

情報をメモします。色を使い分け、アンダーライン引いて分かりやすいようにします。油性ペンはドレーンのマーキング等に使います。



手指消毒用 アルコール

患者さんと自分たちを感染から守るため携帯し、患者さんに触れる前・後に手指消毒します。



看護師大解剖



ペンライト

夜間の病室の見回りに使用します。目の瞳孔の観察にも使います。

ユニフォーム

白とエンジの2色があります。その日の気分を使い回しています。



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

特集：看護師大解剖

患者さんの一番身近にいる医療者である看護師について、みなさんはどんなイメージをお持ちですか？
患者さんの目の前にいる時も、そうでない時も、看護師は日々さまざまな活動をしています。
今回はそんな看護師の活動の一部をご紹介します特集です。



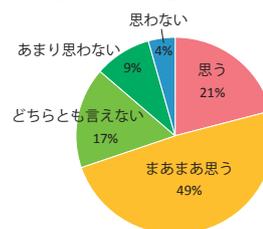
Instagramで情報発信中

患者さんの看護にとどまらない、看護師のさまざまな活動を紹介します

患者さんにとって、看護師は受診や入院の際に必ず対面し、話をする「病院内の一番身近な医療者」かもしれません。でも、患者さんが普段よく会う場所以外で看護師が「どんな活動をしているのか?」ということはあまりご存知ないのではないのでしょうか。看護師の仕事と言えば、もちろん「患者さんの看護」が第一ですが、他にもたくさんの活動や取り組みを行っています。それで

も、合間に食事もしますし、仮眠を取ることもあります。「きかんのみかた」第4号では、院内の各部門における看護活動、研修などの看護以外の活動、日々の活動に感じていること、さらにはお役立ち情報など看護師に関わる様々な情報を紹介していきます。最後まで楽しくお読みいただき、少しでも新たな発見があれば幸いです。

Q. 学習や成長の機会があると思いますか？



看護職員アンケート調査

看護職員アンケート調査の結果、「学習・成長の機会がある」「上司への信頼」といった項目で全国平均を大きく上回りました。職員が安心して安定的に働ける職場環境を整えることで安心安全な看護を提供します。

私達の仕事は常に自己研鑽!!



教育環境

当院は、各種シミュレーターなどを取り揃え、実際の病棟を想定した「魚沼共育トレーニングセンター」を開設しています。当院の看護師はもちろん、地域内の看護職員も利用できるような体制を整えています。



新人看護職員の育成

新人看護師は、新人教育委員会が主催する年間を通じた様々な研修で基礎的な知識や技術を学んでいきます。また、部署全体で新人看護職員を見守る体制もあります。1年後には、大きく成長した姿があり嬉しく思います！



認定看護師の紹介

特定の分野において、所定の教育課程を修了し試験に合格した看護師です。現在は9分野の認定看護師が、患者さんやご家族へより良い看護が提供できるように、「実践」「指導」「相談」の役割を担って看護の質の向上を図っています。



専門看護師の紹介

専門看護師は、複雑で解決困難な看護問題を持つ患者さんやご家族等に対して、高い水準の看護ケアを効率よく提供するために、特定の分野において6つの役割(実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)を果たし、看護学の向上を図っています。

病棟

病棟看護師は2名1組で安全で安心な看護を提供しています

不安や苦痛を持って入院した患者さんが、少しでも安心して安楽に過ごせるように、また早く元の生活に近づけるように援助をしています。当院では、職員が2名1組で患者さんを担当する看護方式をとっています。担当の看護職員の名札を枕元に表示しています。電子カルテを持って2名で訪問し、点滴内容・内服薬の量・医師の指示をダブルチェックしています。生活援助も患者さんの不安が少なくなるよう、2名で行っています。互いの知識と経験の違いを活かし、計画や記録を見直しています。地域の方々に信頼していただけるよう安全で安心な温かな看護を提供することが私たちの仕事です。



Q 夜勤の間はどんな仕事をしているの？

ナースコール対応、点滴・内服、体位変換や排泄、検温、食事介助などを行いながら、不眠や不安の訴えなどを傾聴し安眠できるよう努めています。暗い中でも寝返りや体動等が急変によるものか否かを判断しながら巡視しています。

スタッフからの一言 池田 祐子

日々慌ただしく業務に追われていますが、スタッフ同士協力し合って、患者さんに安全に安心して治療を受けていただけるよう心がけています。患者さんの笑顔や「ありがとう」という声掛けに、やりがいを感じながら仕事に取り組んでいます。

入院患者Aさんの1日



6:00 起床・検温
7:00 モーニングケア

08:00 朝食
09:00 検温・点滴治療・清潔ケア
12:00 昼食
14:00～ リハビリテーション
17:00～ 検温
18:00 夕食
21:00 消灯

病棟看護師B(日勤)の1日



8:30 情報収集
8:50 申し送り

9:00 検温・点滴治療・清潔ケア援助
11:30 交代で休憩
12:00 昼食配膳・食事介助・配薬
13:30 カンファレンス
14:00～ ラウンド・必要時検温・
リハビリテーション介助
16:30 申し送り

看護師の最強パートナー達!



介護福祉士

ケアやナースコールの対応時に患者さんと接する中で傾聴したことや、個々の動きに合う介助方法を看護師と共有しています。患者さんの機能を最大限に活かし、以前の生活に近い環境整備を心掛けて安心して療養できるよう努めています。



看護補助者

必要物品の補充や整備のほか、入浴、排泄、食事の介助、検査送迎などを行っています。体の具合が悪く自分の身の回りのことをすることが困難な患者さんのお手伝いをして、患者さんが快適に過ごせるようにしています。



FA(フロアアシスタント)

主に文書類の事務的サポートをしています。患者さんとご家族に接する機会は、入院時の病棟の案内、病室の使い方の説明、昼食の配膳、ご家族からの荷物の受け渡し等があります。笑顔で心がけて対応しています。



ユニフォーム紹介

(左から)
・フロアアシスタント
・看護補助者
・介護福祉士

外来

「地域をつなぎ、命をつなぐ」当院外来の役割

新型コロナウイルスの大きな感染拡大の波が何回かありました。外来体制を縮小せず維持できたことは、地域の皆様にマスク着用・手指衛生等の感染対策にご協力をいただいたおかげです。

マスクを着用しておりますが、病院の顔として笑顔で心を込めた言葉がけを行い、安心して外来診療を受けられるよう努めています。特に今年は患者さんとの信頼関係を築く第一歩として「職員の自己紹介」に力を入れてきました。待ち時間が長くなることもあり、ご迷惑をおかけしておりますが、引き続き対策を検討してまいります。さらに、患者さんのご意向に沿った治療や療養生活を送れるよう病棟部門や地域との連携も進めてまいります。



Q 何科を受診したらいい?

何科を受診したらいいかわからない場合は、中央受付1番窓口にお問い合わせください。診療科が決定すると、診察券を入れた黄色いファイルに「基本スケジュール」という用紙が入ります。その順番でお進みください。

スタッフから一言 高野 久美子

「お薬手帳」と「うおぬま・米(まい)ねっと」は地域を繋ぐパスポートです!! 「お薬手帳」を忘れずにお持ちください。また、うおぬま・米ねっとに加入しましょう! 地域の医療機関を繋ぐ情報ツールです!

外来診療科

A ブロック(1F)

消化器外科・一般外科
心血管外科
呼吸器外科
整形外科
脳神経外科

B ブロック(1F)

産婦人科
精神科

C ブロック(2F)

内科/総合診療科、循環器内科、内分泌・代謝内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ・膠原病科、呼吸器・感染症内科、消化器内科、脳神経内科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、矯正歯科、歯科口腔外科

D ブロック(2F)

小児科
皮膚科
眼科
麻酔科

通院治療外来スポット



通院治療室

化学療法法のスペシャリスト(化学療法看護認定看護師)を含めたスタッフ全員が、患者さんの自宅での療養生活における副作用対策や注意点などをわかりやすい言葉を用いて、理解してもらえるように心がけています。また、室内の雰囲気明るくて話しやすいと好評をいただいています。



中央処置室

外来全体の点滴・処置・検査を担っています。多数の患者さんにご利用いただいているため、患者さんが安全に安心して点滴・処置・検査を受けられるよう、1人1人の患者確認と丁寧な説明を心がけています。

外来看護師の1日



8:30 環境整備(拭き掃除・換気)、診察の準備
9:00 医師の診察の介助
検査案内・処置時のケア・急患対応
患者さんへ療養生活について説明

12:30~13:30(目安) 昼休憩(交代で休みます)

午後 診察の介助、予防注射・健康診断・検査案内・処置時のケア・急患対応、患者さんへ療養生活について説明、予約変更の電話対応
翌日の準備(診療材料の準備やカルテからの情報収集)
関連部署との連携・調整

Q 予約変更の電話はどのようにして午後2時~4時なの?

当院の外来には1日約800~1,000人の患者さんが来られます。午後2時位までは、切れ目なく診療が続いており、電話対応が難しくなっています。緊急のご連絡以外は、午後2時~4時のお電話でご協力をお願いします。



内視鏡・放射線

安心・安全な検査と、迅速な対応をめざしています

内視鏡室では、胃カメラを年間約1,600件程度、大腸カメラを約1,000件程度実施しています。内視鏡検査だけでなく、心臓カテーテル治療、MRI検査や救急外来など幅広い分野に従事しています。どの検査や治療においても、安心、安全な処置を行うことが私たちの目標です。そのため、患者さんには検査前の問診や、数回にわたり名前や生年月日の確認をさせていただきますが、安全な処置のためにご協力をお願いします。皆さん、胃カメラは「オエーッ!」となり嫌だなあと思うことがあるかと思いますが、経験豊富な医師陣と看護師で、できるだけリラックスして検査に臨んでいただけるよう取り組んでいます。

役立 検査のコツ

検査中、目を閉じてしまうと逆に肩や首に力が入ってしまい内視鏡が入りにくくなります。軽く目を開けたままの方が力が抜けやすくなります。スタッフからも適宜声掛けさせていただきます。

スタッフからの一言 五十嵐 卓也

内視鏡室スタッフは救急外来業務に従事することもあります。また、内視鏡検査だけでなく、CT検査などの放射線検査にも迅速に対応できるよう日々取り組んでいます。

透析室

スタッフ一丸となって安心・安全な透析治療を提供します

みなさん、こんにちは!人工透析室です♪透析室では、様々な理由で腎臓が正常に働かなくなった腎不全の方に血液透析を行っています。

透析室のベッドは24床あり、医師4名、看護師9名、臨床工学技士10名で日々、透析患者さんのサポートをしています。血液透析を受ける患者さんは様々な障害を抱えることから、腎臓内科以外の各診療科でもしっかりサポートできる体制をとっています。私たちは、透析を受けることが決まった患者さんに、血液透析や腹膜透析、腎移植などの治療を患者さんご自身と考えてもらう「療法選択外来」も行っています。

透析患者さんを
しっかりサポート



Q 院内のお気に入りスポットは?

私のお気に入りスポットは、職員食堂のカウンター席です。窓から見える青い空をポーッと眺めながらご飯を食べるのがホッとすると時です。窓から見える平らな屋根の上に雪が積もらないのいつも不思議に思っています。融雪屋根なのかな～?

スタッフからの一言 目黒 沙織

血液透析や腹膜透析をされている方たちは、一生治療を継続しなければならないため、身体の異常の早期発見はとても重要です。そのため、普段からの患者さんとの何気ないコミュニケーションの大切さを日々感じています。

ご家族の不安や
ご心配も相談ください

救命救急・外傷センター

「命をつなぐ」

魚沼地域の救急医療を守ります

みなさん、こんにちは、救命救急センターです。急な病気やケガをされたことは、ありますか？ご家族がそのような状況になってしまった経験はありますか？不安で怖くてどうしたらいいかわからなくなることもあると思います。私たち救命救急センターは、24時間、365日、いつでも患者さんを受け入れられる体制を作っています。ここでは、一般病棟よりも病床数が少なく、重症な患者さんを看護しています。1対1と言っていくらい患者さんに手厚い看護ができる体制となっており、看護師としてもやりがいのある病棟です。「魚沼地域の命を繋ぐため」にスタッフ一同、頑張っています。



Q 血や傷が苦手な人はいますか？ (どうしていますか?)

私もあまり得意ではありませんが、目の前の患者さんが苦しんでいる、何とかしなきゃ!という方向に意識が向くと、血や傷にあまり意識がいかなくなると思います。あとはもう慣れです!



スタッフからの一言
齋藤 里真

患者さんの病状が少しでも良い方向に進むよう、スタッフ一同、精一杯ケアに努めていきます。ご家族の方も救命救急センターに入室と聞くと不安になることも多いと思いますが、お気軽にご相談ください。

一期一会を大切に
患者さんと手術に
向き合います



Q リラックスしたいときは何を する?

実家が一番落ち着くことができ、安心できる場所なので、リラックスしたいときは実家に帰ります。実家に帰って友達と遊んで、美味しいものを沢山食べてストレスを発散します。そのあとお風呂に入りお昼近くまでぐっすり寝ます。



スタッフからの一言
根津 美紀

手術を受けられる患者さんには安心して手術に臨んでいただけるように、可能な限り手術室看護師が手術前に病室へ伺わせていただいております。どんな些細なことでも構いませんので、私たちに聞いてください。

手術室

手術を受ける患者さんの力に なれる手術室を目指します

こんにちは看護部手術室です。看護師と看護助手の総勢33名で、13の診療科、局所麻酔から全身麻酔の手術全般に対応しています。皆さんはTVドラマなどで手術シーンを見たことがありますか？ガウンを着て執刀する医師の術野の介助をする器械出し看護師。患者さんの状態を観察し記録に残す受け持ち看護師。手術全体を見て受け持ちの補助をする大外看護師。3人チームで1つの手術に対応しています。幅広い知識が必要とされ高度な治療・技術に対応すべく日夜鍛錬を積んでいます。ベテランからの後輩指導・育成にも力を入れています。患者さんにとって人生の一大イベントである手術。私たちは一期一会を大切に、一つの手術に真摯に向き合い、患者さんの力になれる手術室を目指していきます。

家族中心の医療を
心がけています



NICU/GCU

NICU/GCUってどんなところ？

NICU/GCUには、予定日より早く生まれた赤ちゃん、体重が小さく生まれた赤ちゃん、呼吸の助けが必要な赤ちゃん、何らかの理由で観察・治療が必要な赤ちゃんが入院しています。常に赤ちゃんの呼吸や心拍、体温を管理するための特別な医療機器や設備が整っています。

看護師は、赤ちゃんの全身状態の観察や異常の早期発見、呼吸の管理、薬剤管理と投与、赤ちゃんの日常的なケア等を行っています。パパとママへの授乳や育児の指導、赤ちゃんの心や呼吸が落ち着く効果がある「カンガルーケア」(赤ちゃんを素肌で抱っこ)も行い、家族中心の医療を心がけています。

役立 ファミリールームの紹介

ママとパパが赤ちゃんと一緒に過ごすことができるお部屋です。赤ちゃんの特徴が分かったり、赤ちゃんとの生活に慣れることができます。お家で少しでも安心して赤ちゃんを育てることができるようサポートしています。

スタッフからの一言
風間 愛美

NICUは、力強く成長していく赤ちゃんや赤ちゃんの成長に笑顔するご家族の姿を見られる喜びがあります。赤ちゃんが可愛い洋服に着替えて、ご家族の腕に抱かれて退院していく時には大きな感動があります。

患者さんにとって身近なケアを検討するチーム

認知症・せん妄
ケア委員会の
メンバーです



認知症・せん妄ケア委員会

急性期医療を受ける患者さんが、苦痛や侵襲により引き起こされる「せん妄」を最小限にするために、院内研修の開催や情報発信を行い、治療に専念できるよう、認知症・せん妄ケアの質の向上に取り組んでいます。

スタッフから一言
池澤 直美

認知症患者さんの尊厳を守り、安心して治療が受けられるように、温かな寄り添った看護を目指しています。

骨折リエゾン
チームです



骨折リエゾンチーム

骨折リエゾンチームは、骨粗鬆症をベースとした股関節骨折の方を対象に、二次骨折(骨折の連鎖)を断ち切るため、多職種(約30名)で連携して合併症の予防、転倒予防、骨粗鬆症薬導入率・継続率上昇を目指します。

スタッフから一言
山口 政嗣

骨折リエゾンチームみんなで、骨折のことや骨粗鬆症のこと、転倒予防、栄養管理、転院のことなどを説明した動画を作り、手術待機中のご家族にご覧いただいています。

看護部管理室

患者さんと接する看護職員をサポートする仕事をしています

看護部には、看護部管理室という部署があります。私たち管理室は、病院経営に参画し、質の高い看護サービスが提供できるように、看護職員を様々な場面でサポートしています。教育研修の企画・実施、看護師の採用・配属、また、多くの入院患者さんを受入れられるように病棟のベッドを管理する業務などがあります。当院の看護職員が専門職としての知識・技術を持ち、医療人としての態度・心構えを持った人材に成長できるようサポートすることで、地域の方々に信頼していただける安全で安心な温かい看護を提供することを目指して活動しています。



当院イメージキャラクター
「くるくるちゃん」



「相手の気持ちになって考え、体も頭も、心のアンテナも、くるくる動かせるように」という思いが込められています



魚沼基幹病院のよいところ(自慢)は？

越後三山を望む抜群なロケーションの中で、四季を感じ、人間として心身ともに成長を実感できます。職員同士のコミュニケーションも良く、とても働きやすい職場です。



看護部長から一言
高橋 みはる

「地域全体でひとつの病院」のミッションのもと、私たちが担うべき使命をしっかりと心に刻みながら、地域の方々から看護を学び、「温かい看護」で応えたいと思っています。

コラム

魚沼圏域の看護職員とも交流しながら研修・情報交換を行っています



高度医療・救急医療・周産期医療の役割を果たし、地域の方々に寄り添った温かな看護が提供できるように、日々研鑽しております。「地域全体でひとつの病院」という医療構想の中で、魚沼圏域の看護管理者が企画し、看護職員の研修や交流会を行っています。令和4年10月には、「魚沼圏域新人看護師交流研修会」を開催しました。圏域内の13施設より、52名

の新人看護職員が集合し、施設紹介、屋外レクリエーションなどを通して、楽しく交流を深めることができました。また、圏域内の看護管理者が集まり、専門性の高い看護師が地域の中でさらに活躍できるように意識向上研修も開催できました。様々な施設の看護管理者と顔の見える交流をすることで、地域における人材育成を考える貴重な時間となりました。



新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院

魚沼基幹病院は、新潟県が設置し、一般財団法人新潟県地域医療推進機構が運営する病院です。

病院に併設される新潟大学医学総合病院魚沼地域医療教育センターと連携し、地域医療に貢献する医療人の育成にも力を注ぎます。

一般財団法人 新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院

〒949-7302新潟県南魚沼市浦佐4132

Tel 025-777-3200(代) Fax 025-777-2811(代)

魚沼基幹病院

検索

hp <https://www.uonuma-kikan-hospital.jp/>

facebook.com/UonumakikanHosp

twitter.com/UonumaKikanHosp

「フォロー」「いいね」「リツイート」「シェア」お願いします。

